



当別町水道事業受水式にて(4月1日)

文学碑「石狩川」献花式



郷土芸能を後世に伝える

当別音頭を守る会

地域文化の発展のために

当別町で第1号となる無形文化財に指定された「当別音頭」を各種行事で披露している当別音頭を守る会。これまでの活動内容と今後の抱負について、代表の村上スミ子さんと佐藤しげるさんからお話を伺いました。

郷土芸能として「当別音頭」を多くの町民に伝承、継承するために、各種イベントや町内会の行事、小学校の運動会にも参加し披露しています。踊りを通して地域の方々とのコミュニケーションを図りたいと考えており、お声掛けいただければ、喜んで参加させていただきます。子ども達や若い方に当別音頭をもっと知っていただきたい。昔、開催されていた産業祭りでは、男女問わず誰もが参加して踊っていました。

発足は平成14年7月2日、当時は約240名の会員がいましたが、現在は130名ほど。平均年齢も60代から70代の方がほとんどで、今後、どのように後継者を育てていくかがこれからの課題です。活動を末永く継続

していくために、1人でも多く会員が増えてくれると嬉しいです。毎月、第1火曜日に2時間ほど稽古をしています。入会をしていない方でも見学したり、参加することも可能なので興味があれば気軽に連絡して下さい。大人に限らず、若者や子どもにも是非、参加していただき踊りを覚えて欲しいですね。

全日本民謡指導者連盟「たのしい民謡」に選ばれた平成23年は、全国の民謡愛好家や指導者1,000名が集まった研修会での披露やビデオ撮影、指導も行いました。これをきっかけに全国に自慢できる民謡にもなりましたね。だからこそ私達はいつまでも「当別音頭」という火を絶やさぬよう「守る会」として誇りを持ち、これからも活動を続

けていきたいと思っています。私達の願いは、当別の民謡を全町民が踊れる日が来ることです。

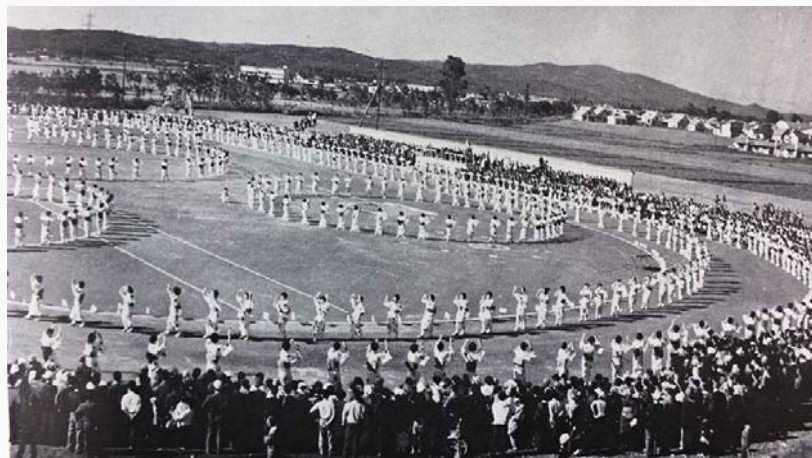
(無形文化財指定までの経緯)

「当別音頭」を郷土芸能として末永く伝承・保存し、町の芸術文化の振興にも継続的に寄与していくために、教育委員会は町長の支持を受け、本年2月に当別町文化財調査審議会へ諮問しました。

その後、教育委員会は同審議会の答申を受け、第4回定例会にて指定しました。今後は、町をあげて、「当別音頭」を保存・継承すべく伝承・普及活動を進めながら、町民の郷土愛を高め、文化の充実・発展と町づくりに大きな役割を果たすことが期待されます。(4月10日取材)

当別音頭を守る会

(村上代表：090-8270-8418)



当別町開基100年式典(昭和45年) 婦人会の方による「当別音頭」の披露